



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

活動報告	— 宿泊集中セミナー — 1・2面
	— 平成29年度第2回総会・研修会 — 2・3面
	— 高齢研究委員会研修会 — 3面
	— 保育研究委員会研修会 — 4面
	— 第21回社会福祉法人経営青年会全国大会 — 4・5面
	— 平成29年度関東甲信越静岡ブロック社会福祉法人経営青年会総会・研修会 — 5・6面
お知らせ	— 新入会員紹介・会員数 — 6面

活 動 報 告

宿泊集中セミナー

今年度は「法人を守る」をテーマとして、平成29年11月21日（火）、22日（水）に箱根湯本の吉池旅館にて宿泊集中セミナーを開催しました。

1日目のコンセプトは『リスク管理』で講師には、小川佳子氏、早川英樹氏をお招きして、ご講演いただきました。

小川氏は、『小川佳子法律事務所』の代表として、渉外、会社法務、労働や海事等の他、一般民事事件を中心に、破産管財や刑事事件も扱ういわゆるマルチ弁として活躍されています。また社会福祉関係では神奈川県の高齢者・障害者の権利に関する委員の他、高齢者福祉関係の仕事に広く関与し、心神喪失者医療観察法の付添人業務なども行われています。さらに、弁護士会の会務活動として人権擁護委員会の委員もプロボノ活動や介護専門誌『ふれあいケア』で連載を行っています。

研修では人権擁護と福祉、施設事故、契約違反、不法行為、証拠などを、実際の判例に基づいて丁寧にお話ししていただきました。

早川氏は、神戸製鋼所に在職中の1995年、神戸市内で阪神淡路大震災により被災されました。その後、復興推進本部のスタッフとして復旧／復興及び災害対策事業に関わられました。現在は、株式会社フォックスブルーの代表取締役として、自らの実体験に基づいた『地震から生き残るためのノウハウ』を社会に浸透させるべく、学校、保育園、幼稚園、高齢者介護施設、障がい者施設などにおける危機管理について、多面的でより現実的な対策の提案を行っておられます。



早川英樹氏の講義風景

研修では、自身の経験談、災害発生時の時間経過とその対応、東日本大震災のその後、事業継続計画（BCP）についてなど、様々な側面からご講演をいただきました。

小川氏、早川氏のお話は共通する内容も多く、「大切なことは共通することが分かった」「訴訟の件など、知らない話が聞けて良かった」「改めて見直しをしなければならないと感じた」などの沢山の感想をいただきました。

2日目のコンセプトは『おもてなし』で、講師には田中康久氏をお招きして、ご講演いただきました。

田中氏はインターネット上に箱根の観光案内掲示板を立ち上げ、全国から寄せられる様々な箱根観光に関する質問に対し、ボランティアながら時間と労力を惜しまずに、迅速丁寧な案内を続け、『箱根のことは田中氏に聞け』と人づてに名前が広がり、メディアから引っ張りだこになり、2006年には箱根町観光協会認定の「箱根もてなしの達人」に選ばれました。



田中康久氏の講義風景



参加者集合写真

研修では、箱根の歴史、民間の力、おもてなしなどのお話を、写真を交えながら、分かりやすくお話していただきました。参加者からは、『なかなか聞けない話が聞けて興味深かった』などの感想をいただき、社会福祉法人に必要とされる発想、地域、民間、おもてなしについて改めて確認することができました。

今回の宿泊集中セミナーには、多数の方に参加していただきました。2日間という短い期間でしたが、研修もさることながら、情報交換会でも様々な意見が交わされ、会員同士の交流を大いに深めることができた、とても有意義な時間となりました。 【研修委員 平本剛士】

平成 29 年度第 2 回総会

平成 30 年 2 月 28 日（水）14 時から横浜市社会福祉センターにて平成 29 年度第 2 回総会を開催しました。出席者 30 名、委任状提出 35 名、計 65 名をもって総会成立とし、松が丘保育園渡邊成仁氏を議長として、次の議案を審議しました。

- 第 1 号議案 平成 29 年度収支補正予算（案）
- 第 2 号議案 平成 30 年度事業計画（案）について
- 第 3 号議案 平成 30 年度収支予算（案）について
- 第 4 号議案 その他

審議の結果、すべての議案が承認されました。

来年度の事業計画にあるホームページの運用については、活発な意見交換を行い、情報発信の大切さを共有しました。

最後に、新たに入会した 6 名の紹介を行い無事に終了しました。

【総務広報委員 石川友紀】



総会風景

総会研修会

平成 30 年 2 月 28 日（水）に研修会を開催しました。講師には、HANDS I G N 様をお招きして『歌やダンス交えて手話を楽しく学ぶ』をテーマにご講演いただきました。

HANDS I G N様は、手話をダンスに取り入れた五人組のボーカル&パフォーマンスグループです。ニューヨークアポロシアターコンテスト『アマチュアナイト』で初優勝し、その後は多くのメディアに出演されています。また、手話の普及活動で神奈川県内の学校を中心に講演会を行っています。

手話を取れ入れた躍動感のあるダンスと、聞き入ってしまうほどの素敵な歌声を披露され、観客参加型のパフォーマンスで会場が一体となる、とても素晴らしい公演でした。また、『ありがとう』という言葉の反対語は『あたりまえ』と言われ、感謝の気持ちを相手に伝える大切さを再確認する機会となりました。



参加者集合写真

参加者からは『日々仕事をする中で、とても大切なことを再確認することができ、とても感動した』『言葉でなく、想いを伝える手話の素晴らしさを知ることが出来た』などの感想をいただき、改めて、私たちは社会福祉法人の存在意義や相手に気持ち伝える大切さを再確認することができました。

私たちも、国民に信頼される社会福祉法人を目指してはおりますが、まだまだニーズに応えきれていない現状もあると感じています。『理想の福祉』の実現を考えることができるとても素晴らしい研修となりました。

【研修委員 大畑 直】

高齢研究委員会研修会

高齢研究会では昨年度、本年度の 2 ヶ年計画でアメリカでの海外研修を予定しています。今回予定している海外研修は青年会にとって初めての試みであり、外国の施設を訪問し、更なる高齢者介護の向上の為にアイデアを取り入れる目的として実施いたします。

海外研修の実施にあたり、事前講習として去る 2 月 20 日に麴町ジロールの正垣幸一郎先生をお招きし、認知症高齢者に対するコミュニケーション方法である“バリデーション”の講習を実施いたしました。

“バリデーション”はアメリカ人のナオミ・フェイルさんが開発した認知症高齢者とのコミュニケーション方法であり、アメリカ本土、アジア、ヨーロッパなど 10000 を越える施設で広く活用されています。

また、海外研修時には正垣先生のご紹介により、実際に“バリデーション”を取り入れて介護をしているアメリカの施設を訪問予定です。

普段、現場から離れている管理者の皆様には演習を交えた講習を実施いただき、改めて認知症高齢者との接し方を再認識する大変良い機会となりました。

日本バリデーション協会：

<http://www.clc-japan.com/validation/link.html>

【高齢研究委員長 坂本陽二郎】



正垣幸一郎氏の講義風景

保育研究委員会研修会

去る平成 29 年 11 月 20 日（月）、神奈川県社会福祉会館 4 階第 3 研修室において、平成 29 年度保育研究委員会研修会を開催しました。

今回も日本保育協会青年部と共催で開催をし、40 名の方にご参加いただきました。

講師には、鶴見短期大学教授、天野珠路氏を迎え、「3 法令改定（訂）～保育の質をより高めるために～」というテーマで講演をしていただきました。

来年 4 月から、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」が同時に変更されます。指針、要領はその性質上、どうしても抽象的な表現が多くなってしまいますので、今回はなるべく具体的な例を盛り込みながら研修会を進めていただきました。当日は、青年経営者の方のみならず、現場の保育士の方々にも多数ご参加いただき、今回の改定のポイントも含めてとてもわかりやすくお話していただきました。今回の研修会を機に自園の保育の質向上に職員みんなで取り組むきっかけにいただけたら幸いです。

最後になりますが、今回ご参加いただいた皆様、講演して下さった天野先生をはじめ、当日まで色々と準備等でご協力いただいた事務局の葛西氏や経営青年会の方々にお礼を申し上げます。

【保育研究委員長 渡邊高幸】



研修風景

第 21 回社会福祉法人経営青年会全国大会

平成 29 年 10 月 19 日（木）～20 日（金）、徳島グランヴィリオホテルにて『ふくし×クリエイト』をテーマに経営青年会全国大会が行われました。およそ 300 名の参加者が集う中、神奈川県からは総勢 15 名参加いたしました。

磯経営者協議会会長、飯泉徳島県知事、遠藤徳島市長らが挨拶され本会が開会となりました。基調講演では、塘林全国経営青年会会長が制度改革を受けて、社会福祉法人が今後目指す方向やあり方について熱心に述べられ、3C（トリプルシー）を平成 29 年度のスローガンに現況活動報告がありました。

行政からは「地域共生社会の進展と社会福祉法人の存在」として厚生労働省社会援護局福祉基盤課長の石垣氏より説明がありました。「我が事・丸ごと地域共生社会」の地域における住民主体の課題解決力強化・包括的な相談支援体制イメージを示し、どんな制度が構築されても必ず狭間があり、そこに助けが必要な方が存在するのでその受け皿として社会福祉法人には期待するところが大きいと述べられました。また再投下対象財産の使途で地域における公益的な取り組みについて範囲が狭く窮屈なため、厚生労働省としても幅を持たせた実施しやすい括りに改善する必要があると考えているようです。

行政からは「地域共生社会の進展と社会福祉法人の存在」として厚生労働省社会援護局福祉基盤課長の石垣氏より説明がありました。「我が事・丸ごと地域共生社会」の地域における住民主体の課題解決力強化・包括的な相談支援体制イメージを示し、どんな制度が構築されても必ず狭間があり、そこに助けが必要な方が存在するのでその受け皿として社会福祉法人には期待するところが大きいと述べられました。また再投下対象財産の使途で地域における公益的な取り組みについて範囲が狭く窮屈なため、厚生労働省としても幅を持たせた実施しやすい括りに改善する必要があると考えているようです。

初日の講演は映画監督蔦哲一郎氏による「映画を通して、地方を考える」でした。林業の PR ムービーを作成するなど地元にはかない良さや強みを十分に引き出し多くの方がマイナーと思われる事業をプラスに変える創造と工夫について紹介されました。強い訴えを汲み取ることができ、人材がいなくて大変な業種だとか嘆く前に前向きにあきらめず色々取り組まなければならないことを再確認しました。



講義風景

2日目の講演は落語家笑福亭學光氏による「落語から学ぶふくし」でした。氏は人を笑わす過程の中で小学生、中学生、高校生、社会人それぞれの場所で笑うと思い込んでいたものが全く異なり、自分で決めつけることはしないと教訓を教わったそうです。相手の立場に立って物事を考え進めていく大切さと自身の固定観念を取り払う必要性について考えさせられました。

続いて、3つの分科会①「社会福祉法人経営～求められる「ふくし」とは～」②「地域活動推進～地域における生きがいをつくりだす～」がありました。私は③「人材確保・育成～多様な人材・働き方の創出のコツ～」のあいの土山福社会岩田氏廣岡氏による発表に参加しました。施設の立地は人口自体が目減りし、近隣に就職場所が多く、中心部から20キロ離れる山間地域であるので人材確保が著しく困難とされている場所とのこと。大量の職員離職など不測の事態で一時事業継続が困難とまでされましたが、現在は入職待ちが出来るほどに回復し成長したそうです。手間をかければ良いケアができるという思い込みや話し合った結果より議論した事を重視する自己満足に疑問を抱き記録方法や会議など徹底的に無駄を洗い出し、スリム化したことにより達成したものでした。自施設の取り組みに近いものがあり、また見習いたい部分が多くあり今後の施設運営の参考にしていきたいと強く思いました。



本場の阿波踊りを踊る情報交換会

情報交換会では「阿波踊り連」の皆様が大勢登場し、本場のあわ踊りを教えていただきました。最後に参加者全員が大きな輪となって楽しく踊ることができました。2日間という短い期間でしたが、講演や分科会も充実しており、熱意あふれる内容の濃い素晴らしい全国大会でした。各県の方々とも交流が深まり、有意義な時間を過ごすことができました。

【総務広報委員 広嶋稔之】

関東甲信越静ブロック青年経営者会 総会・研修会

平成30年2月8日～9日、宇都宮市のホテルマイステイズ宇都宮にて『共生社会の創造 ―これからのコミュニティデザインを探る―』をテーマに関東甲信越静ブロック青年経営者会の総会・研修会が行われました。

講演Ⅰは山崎亮氏。デザイナー主体が依頼人とのズレが生じる経験から、コミュニティに時間をかけデザインする重要性に触れました。各自治体での取り組み紹介は住民主体のバラエティに富んだ内容でした。社会福祉法人は地域貢献を義務付けられたが、法人のやりたいことと住民のやりたいことにはズレが生じます。正しいことと楽しいことをどう組み合わせていくのかにアイデアを振り絞って活動することが重要であると認識しました。

講演Ⅱは鶴岡弘樹氏。在宅医療とは自己実現の医療、安全より安心、延命より尊命にあります。その特長は関わる人が多く連携が重要でした。医療者が福祉に興味を持ち働きかける時代の到来。病院の世紀の理論では19世紀は治せなかった。20世紀は治せるようになった。21世紀は



山崎亮氏の講義風景

治療と健康に深い溝が生じゴール治癒から QOL に変わったことを認識しました。今後は ICT を活用し、なんでもできる医師の存在が求められると示唆しました。



佐藤栄一氏の講義風景

講演Ⅲは佐藤栄一氏。人口減少と少子・高齢化の平均寿命と健康寿命の差は 13 歳となり公共の交通機関廃止や社会資産価値低下を課題とし、将来の人口や活動に見合った都市づくりの転換を示しています。魚の骨をイメージした大通りに電車を往復させ、派生するようバスを整え宇都宮市内全土のアクセスが容易となる住みやすさを目指しています。取り組みは斬新であり実効性が高いと思われます。

この 2 日間を通して様々な分野で取り組んでいる内容を学ぶことができ、有意義な時間となりました。

【総務広報委員 広嶋稔之】

お知らせ

新入会員紹介

新たに入会された新会員を紹介いたします。

高松 紀子 様 (喜寿福祉会)	小倉 青龍 様 (松緑会)
運道 高之 様 (弥生会)	小山 輝幸 様 (寿)
河島 大士 様 (ことりの詩)	川島 達郎 様 (永寿会)

会員状況

106 名 法人数 77 法人 (平成 30 年 3 月 1 日現在)



編集後記

皆さま、毎回原稿作成のご協力ありがとうございます。下半期の経営青年会の活動はとても活発で、今回の広報誌はとてもボリュームのある内容となりました。会員数は徐々に増えてきており、私もいつまでもフレッシュマン気分ではいられなくなってきました(^_^) 来年度からの報酬改定に負けないよう、これからも視野を広げて益々自己研鑽していきたいと思っております。(平本)

発行／神奈川県社会福祉法人経営青年会
連絡先／〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡 4-2
神奈川県社会福祉会館内
(福) 神奈川県社会福祉協議会
福祉サービス推進部社会福祉施設団体担当
電話：045-311-1424
Fax：045-313-0737